

カーボンニュートラルに関する 中経連会員アンケート結果

中部経済連合会

中経連会員アンケート結果（その1）

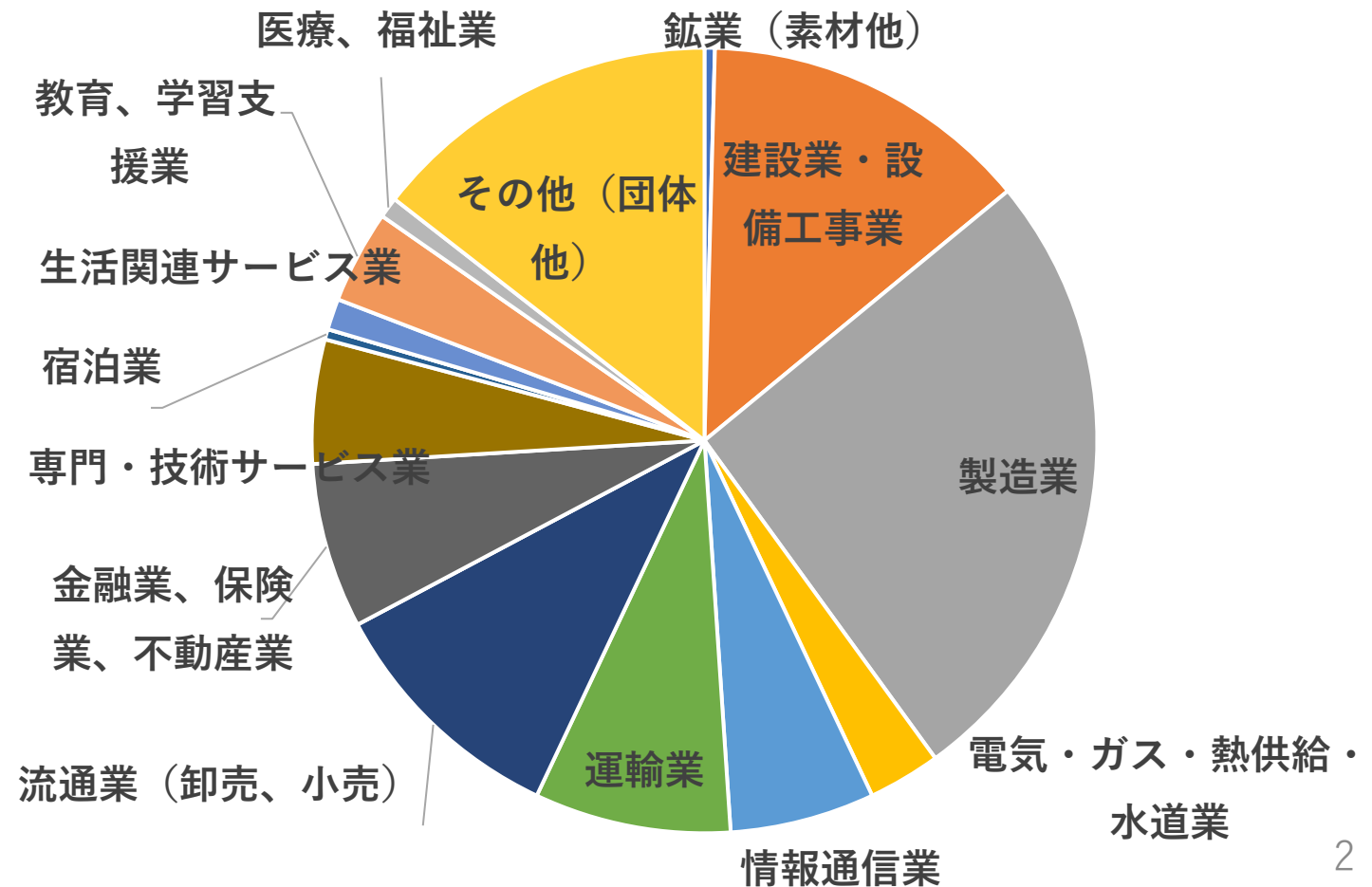
中経連窓口担当者メール宛に一斉メールにてアンケートを実施。経営企画部門・総務部門・環境部門等からの回答を依頼。

アンケート期間は
 12月7日（月）～
 12月24日（木）

回答数
 235件

平均回答時間
 16分11秒

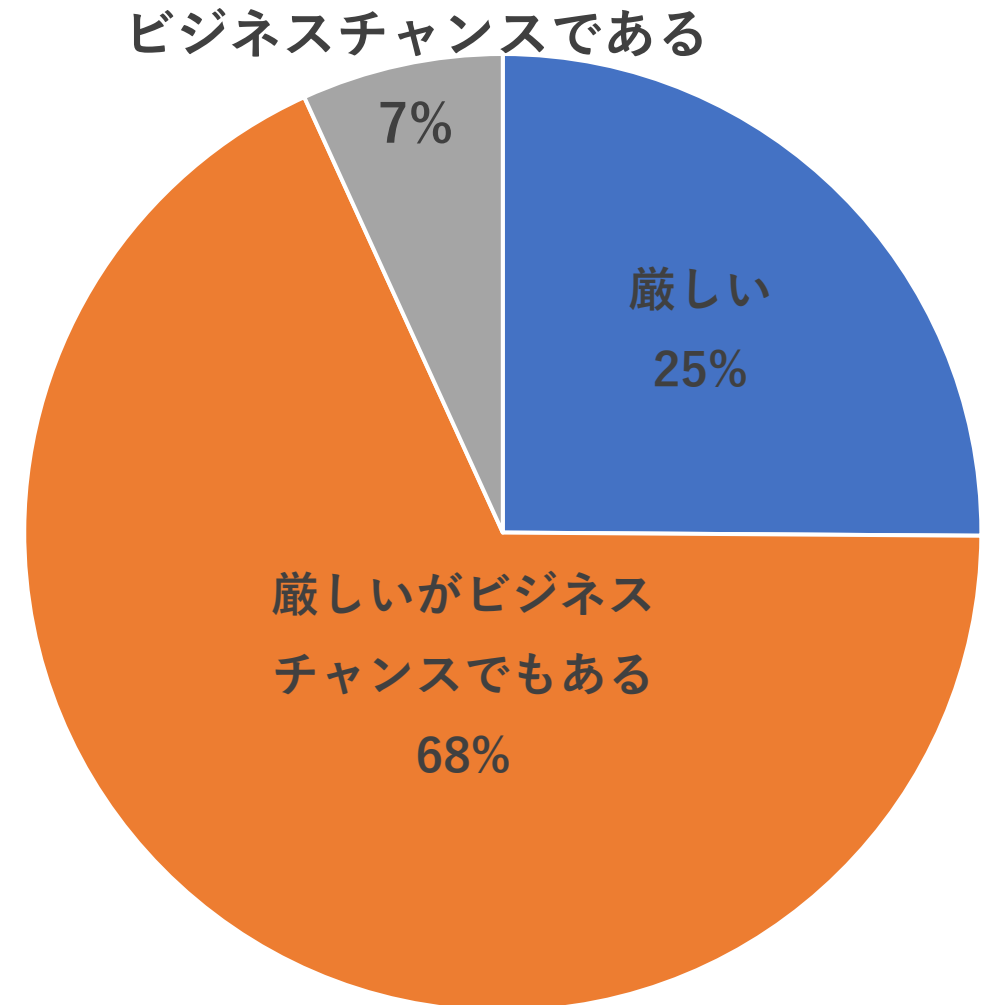
業種内訳は右グラフの通り



中経連会員アンケート結果（その2）

○2050年のカーボンニュートラル達成は
厳しいと思うか

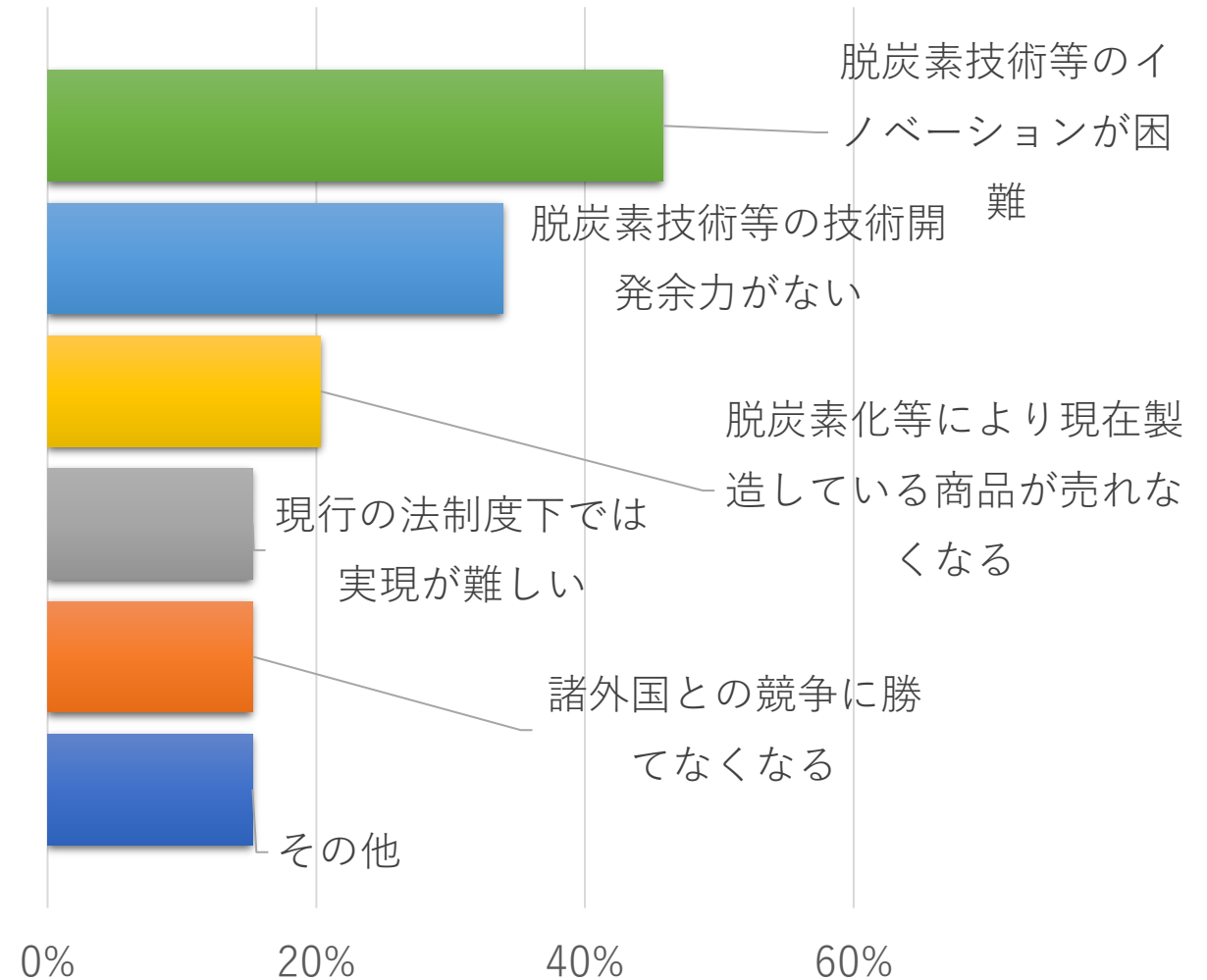
回答の約75%がビジネスチャンスであると、政府方針について前向きにとらえている。その一方で、同質問の回答として、「厳しい」と考える会員は9割を超えていることから、各会員が様々な課題を抱えていることがうかがえる結果。



中経連会員アンケート結果（その3）

○2050年のカーボンニュートラル達成はどのようなところで厳しいか

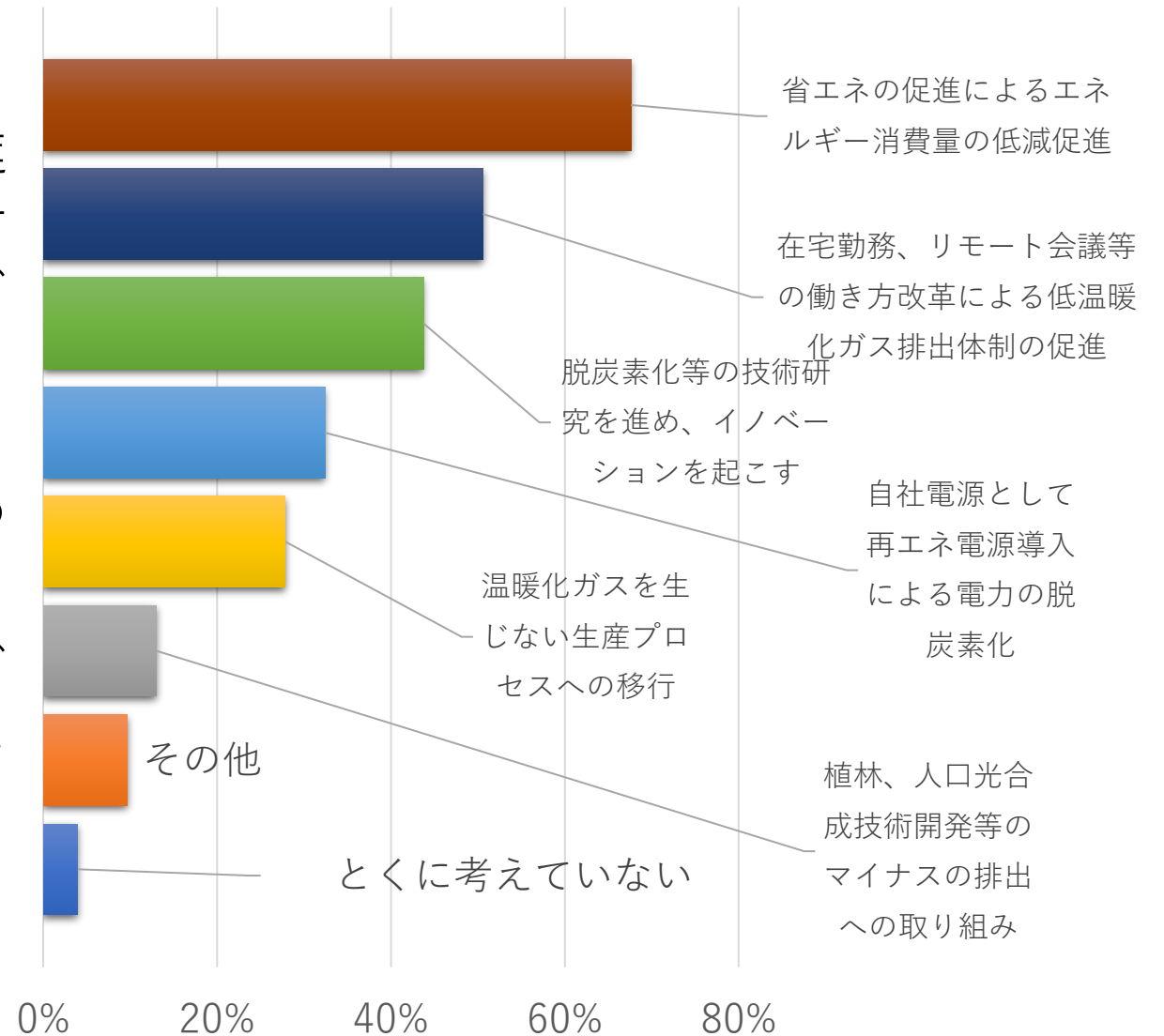
2050年カーボンニュートラルが厳しいものであり、ビジネスチャンスとの答えを出さなかった会員は約25%であり、その理由の主たるものは脱炭素技術等のイノベーションが困難であることおよび技術開発余力がないことで、技術開発に関するものであった。



中経連会員アンケート結果（その4）

○2050年のカーボンニュートラル達成を目指す上で、どのような対策を考えているか。あるいは、どのようなビジネスチャンスと考えるか

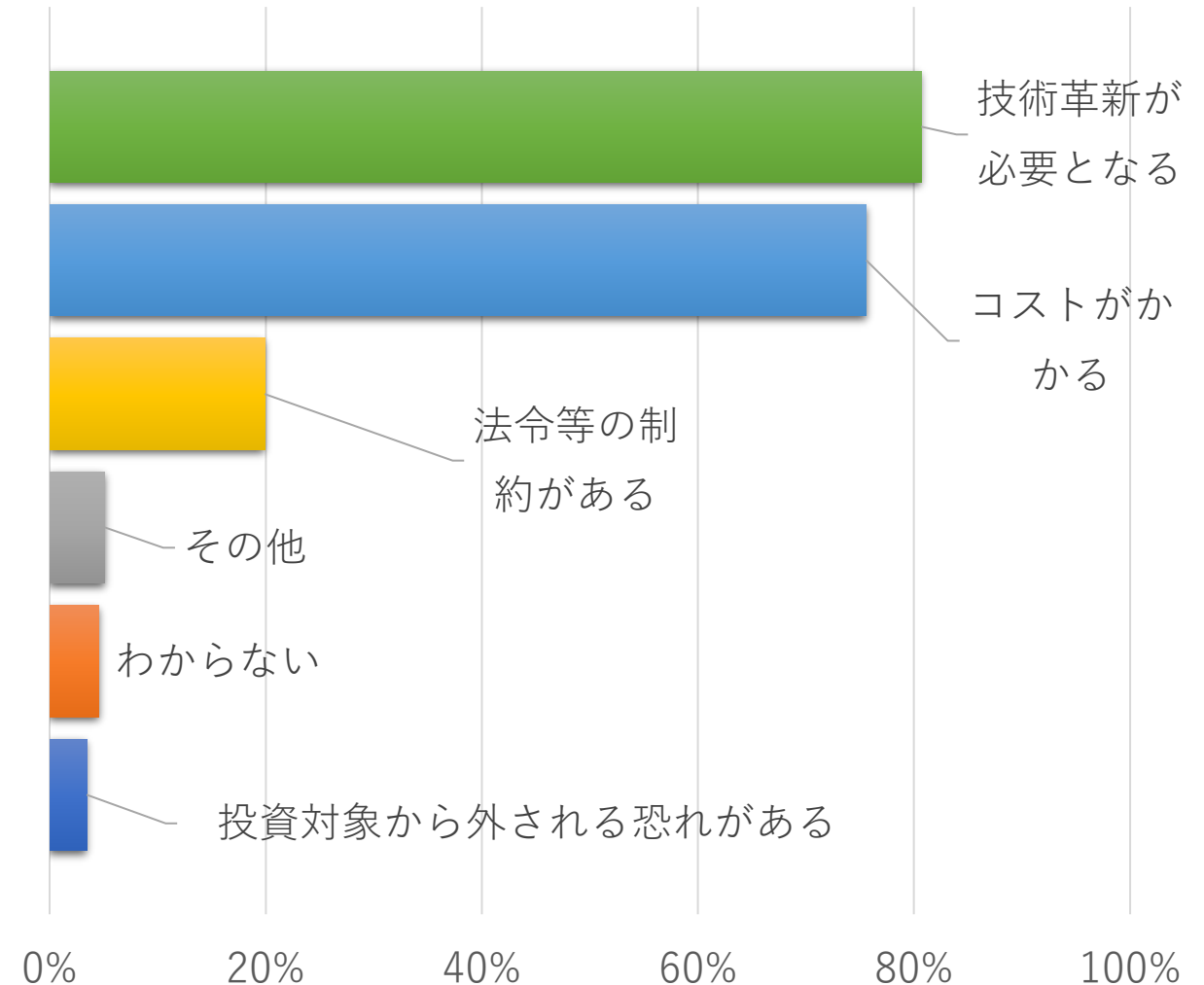
多かった回答は、現実的に可能と思われる省エネの促進や働き方改革による省CO₂体制促進であり、現状技術でも達成可能なところを対策として考えていることがうかがわれる。



中経連会員アンケート結果（その5）

○2050年のカーボンニュートラル達成を目指す上の課題

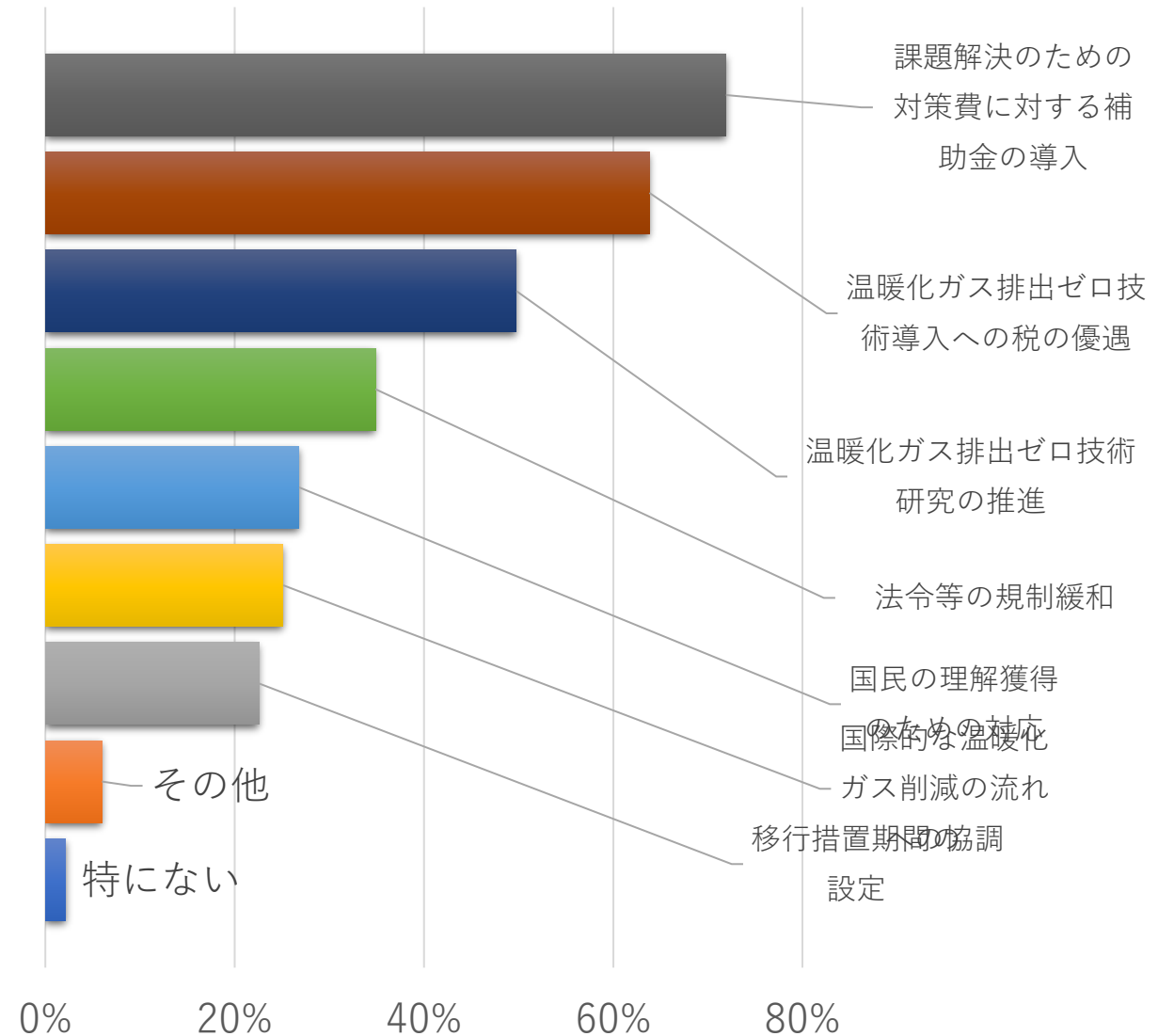
カーボンニュートラルの達成を目指す上での課題としてほとんどの会員は、技術革新が必要であること、コストがかかるの2つを選択しており、イノベーションとそれにとまなうコストにカーボンニュートラル達成の困難さが集約されていると考えていることがわかる。



中経連会員アンケート結果（その6）

○2050年のカーボンニュートラル達成を目指す上で、国や自治体に要望すること

多くの会員がカーボンニュートラルの努力に対する補助金もしくは税優遇を求めているとともに、技術研究を国を挙げて推進することを要望していることが明らかとなった。



中経連会員アンケート結果（その7）

○2050年のカーボンニュートラル達成を目指す上で、社会、他企業、消費者等に期待したいこと

カーボンニュートラルの達成に向け、各会員自らの努力のみでは解決できないところが多いと考える一方で、自ら消費者の目線に立って考えた際、カーボンニュートラル達成という目標のため、生活にかかるコストの上昇を許容できないことの現れであると考えられる。

